

総論

満点	200点	目標得点	140点	試験時間	80分	偏差値	法律:76 政治:75
大問数	5	小問数	62				
【解答形式】		選択式	62/62問	記述式	0/62問	論述式	0/62問
【問題難易度】		C	12/62問	B	25/62問	A	25/62問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：全てマーク式の選択問題。英訳和訳・作文・要約は一切出題なし。総語数4000語弱・試験時間80分で、形式だけ取ればセンター試験に類似。東大併願者を意識か。
- 2：出題内容は発音・文法・会話文2題・長文2題で昨年に同じ。かつてのイメージとは異なり極端な難問や難単語はほぼ駆逐される。解答に至るプロセスはシンプルかつ客観的で悪問・奇問の類もずいぶん減った。
- 3：今年の変化は次の4点。①大問Vの word 数の減少、②同問題の素材変更（説明文→小説の要約文）、③大問IIの会話文選択肢の減少。④内容としては文法語法を絡めた知識問題の重みがやや増した。
①word 数と③選択肢の減少は易化につながる。合格ラインはおそらく7割ちょうど付近で、ほぼ昨年並みかやや高めと推測される。

こんな力が求められる！

語彙レベルは『でか単』PART3。極端な難語の知識は不要だが、第一志望ならやっておけば確実に差がつく。センター試験で言えば安定して9割を取るくらいの力が必要。

発音問題、文法問題も出題されているがせいぜい1割程度。残りは会話と論説が2題ずつの長文問題となっている。会話の占める割合が他大に比して多く、文脈が追えているかを問うものが大半を占める。比喩・皮肉・ほのめかしなど、字面に捕われずに話し手の意図を取る力のある人には非常に有利である。ただし「字面に捕われない」というのはそれを保証するだけの基本的な英語力ができているということで、単なる妄想読みとは異なる。そういう問い方をすることで透明化した英語というか、身に付いた英語力がどれだけあるかを見る問題となっている。

一方長文問題中にも文法・語法などの知識問題を織り込んだ問が出題されている。文脈から2つの選択肢にまで絞り込めるが、そこから後は文法でいずれが適切か判断しなければならない。受験者の答案を分析してみると、今年はこのような問題が合否を決定する問題となるが多かった。特に慶應らしいという問題ではないが、英語の理論的な部分にも抜かりなく対策しておくことが重要と言えるだろう。

【I】

予想点	20/200点	時間配分の目安	5/80分
出題内容	[A] 強勢問題 [B] 文法問題 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』PART3		
出題形式	[A] 強勢位置の異なる単語を選択 [B] 誤文選択		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す [A](1) A (2) C (3) B (4) B (5) C [B](6) A (7) C (8) B (9) A (10) C		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	秋のセンター対策回ならびに1月期の平常授業内で扱う。		

●本大問の特徴・概要

[A]

例年通り大問Iは、アクセント問題が出題された。語彙レベルは『でか単』PART2程度。お茶ゼミの授業では、秋のセンター対策回や1月期の演習授業など平常授業の中でも集中して扱う機会を設けているが、こうした問題はむしろ普段からの学習習慣で差がつく。具体的には電子辞書で単語を引く際に発音ボタンを押してすぐにそれを口まねする。これを一単語引く度に3回繰り返す。周りに人がいる場所ではごく小さな声で行えばよい。1週間も続ければすぐ癖になる。

[B]

いわゆる正誤問題だが、4つの短文から誤りを含むものを選ばせる形式で、これも例年通り。文法というより動詞の語法やコロケーションを問うものが多い。

こうした問題の演習は平常授業でももちろんだが、高3夏期講習の「英文法完成ゼミ」「早慶実戦英文法」、冬期講習の「語法完成ゼミ」で徹底的に行う。

●注目すべき小問

[A]

(2)のapparel(衣服)、(3)のherald(先駆者)、apathy(無気力)などは日本語でも「アパレル」「ヘラルド」「アパシー」とカタカナ語として見かけるが、アクセント位置となると難しい。また(4)のdisciplineはわかっても、(5)のdisciple(弟子)まで問われるとこれも難しいであろう。(5)の正答率は合格者でも低かった。レベルはC。

[B]

(10)はengageの使い方を問うもの。

be engaged in 『仕事』(『仕事』に従事する)

be engaged to 『人』(『人』と婚約している)

というわけで、×She is engaged to her work.(彼女は仕事と婚約している)は不可。比喩としても苦しい。一方、be engaged with a client(依頼人の相手で手がふさがっている)はOK。決して難しい問題ではないが、正答率は低かった。これもCレベル。

(6)の一致(concord)の問題は、誤文を決定するのに述語まで見なければならぬ少し凝った慶應らしい問題だったが、正答率は高かった。

e.g. ×Poverty and ignorance is the main causes of crime. (is → are)

【Ⅱ】

予想配点 60/200点	時間配分の目安 10/80分
出題内容 会話文問題 『でか単』『完熟』レベル』『でか単』『完熟』ともにPART2 〔長文テーマ〕雑談：予備校の必然性に納得せず次々と突っ込んでくるジョンに、ナオミは日本代表よろしく懸命に答える。	
出題形式 文章完成	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す [A] (11) A (12) C (13) A (14) A (15) A [B] (16) A (17) A (18) A (19) A (20) B [C] (21) A (22) B (23) A (24) B (25) A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 平常授業の Reading パートおよび長文マラソンが有効。	

●本大問の特徴・概要

これも恒例の、選択肢10本の会話文完成問題。解き方は、品詞がまちまちなのでまずそこから絞り込むのが鉄則。普段からしておくべき対策としては、会話独特の表現を仕入れておくこと。ところが慶應では会話表現でも教科書や参考書ではなかなか見ないような表現が毎年1つか2つは問われる。小説など会話文を含む大量の英文をしかも丁寧に読んでゆくのが正攻法だが、基本的な単語のコアをつかめば力技で解けないこともない。こういうのは先生との精緻な文章の徹底的な読み合わせが有効である。単語帳にも載っていない、長文問題を何十題解いても身に付かない単語のニュアンスについて、講師は結構語ってくれるものだ。

形式は全15個の空欄に語句を入れてゆくもので、空欄5つごとに[A]～[C]3つの小問にまとめられている。去年は同じく全15個の空欄3つごとに[A]～[E]5つの小問で出題された。細かい話に聞こえるかも知れないが、これは大いに易化したことを意味する。全15個の問題に対して選択肢の総数が30個あるのと50個あるのとではまるで難度が異なる。実際今年の大問Ⅱは合格者不合格者とも正答率は高かった。

慶應-法学部のように時間に比して問題数の多い試験では、試験開始直後にざっと問題を眺めてどこで得点すべきか見極めることが重要だが、設問数と選択肢数の比は一つの指標となる。覚えておこう。

●注目すべき小問

[A]

(12) の I can't complain (まあまあだね) は非ネイティブの受験生にとっては難度の高い会話表現。合格者の正答率も低かった。レベルC。ちなみに誤答として人気のあった no entry は「進入禁止」の意味。

[B]

(20) は合格者と不合格者で大きく正答率の異なった、重要なBレベルの問題である。

But it's not as if kids in the U.K. (20) of co-operation or working in groups...

(でもそれじゃまるでイギリスの子供には協力やグループ作業が(出来ないみたい) じゃないか)

必要なのは述語動詞で後に前置詞 of の続くもの。are completely incapable か、are totally lacking のいずれかで迷うことになるが、incapable が正解。誤答としてよく選ばれていた動詞の lack は in を取る (be lacking in ならOK)。ただし、同じ lack でも名詞として用いられればむしろ of が正解となる。

cf. The lack of co-operation causes you a lot of trouble. (協力の欠如が様々な問題を起こす)

慶應-法学部でも、この程度のコロケーション問題をしっかり得点することが大切なことがわかる。

【Ⅲ】

予想配点	48/200 点	時間配分の目安	20/80 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 470 words 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』PART3 『完熟』PART2 [長文テーマ] 慈善活動：「世界エイズ・結核・マラリア対策基金」や、「ユニットエイド」などのユニークな資金調達法とその困難		
出題形式	[A] 空欄補充（選択） [B] 同意表現選択		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 可否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す [A] (26) C (27) A (28) C (29) B (30) A (31) B (32) A (33) C (34) B (35) C [B] (36) A (37) A (38) B (39) C (40) A (41) B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	平常授業の Reading パート、長文マラソンおよび冬期講習「テーマ別長文」が役に立つ。		

●本大問の特徴・概要

一見ごく普通の長文総合問題だが、設問の種類は選択肢 10 本の空所補充問題 10 問（ただし全て名詞：[A]）に、4 択式の下線部言換え問題が 6 問（[B]）と至ってシンプル。内容は慈善事業の資金集めに関するものでやや取っ付きにくいかも知れない。合格者と不合格者の正答率が逆転する設問も多く、結果から見れば今年最大の難所かつ最大の捨て問題でもあった。語彙レベルは、*hedge-fund*（ヘッジファンド：ハイリスクな手法を用いる投資会社）、*bond*（債券）、*scribble*（殴り書き）、*impetus*（起動力）、*avalanche*（雪崩）など高めで、経済に関する一般的知識も必要であった。英語を勉強（？）して終わりというのではなく、英語を通じて様々な知識を得たり自分なりの視点を作ったりする態度を普段から持っている人は、こういう問題でも何センチかリードできたはずだ。

●注目すべき小問

[A]

(28) a trial scheme (試験案・たたき台) はこの文章中では「お試し期間」というか予備実験のことで trial も scheme も難しい。よく見ると...in a trial (28)となっており、単数名詞が入るところまでは簡単に絞り込める。これで *pledges* (誓約) や *collaborations* (協業) は省けるにしても、非複数形の *recession* や、何より *avalanche* が気になる。落ち着いて考えれば scheme の意味 (計画・案) や前後関係から何とかかなりそうなものだが、実際 scheme を選べた者は合格者を含め少なかった。C レベル。

(33) see the effect (効果がわかる) は、やはり C レベルの難問であった。同じく feel the effect (of the medicine) ((薬の) 効き目が感じられる) などのように使うが、これは「効果」だとか「直接的影響」などと覚えている effect の使い方・使いどころを知っているか、という問題。effect というのはまず第一に「目に見える」「肌で感じる」ものだということがわかる。これも前後関係と消去法で解けそうなものだが、合格者不合格者ともに正答率は低かった。ここに至るまでの文脈を追うのも大変だったことが伺われる。

(29) make a small (29) to Unitaaid (ユニットエイドに小額の寄付をする) は B レベル。合格者と不合格者で差が開いた。contribution (寄付) が入るとするのが答え。まずは単数形であること、make や small との相性の良さ、「貢献」という何となくの意味などから推理して、得点できた者が合格を勝ち取っていた。

【IV】

予想配点	36/200 点	時間配分の目安	20/80 分
出題内容	会話文問題 [Word 数] 695 words [『でか単』『完熟』レベル] [『でか単』PART3 『完熟』PART2 レベル] [長文テーマ] 新詩集について：ある詩人へのインタビュー。大事故で死線をさまよった後で書かれた復帰作と詩人に以前との変化はあったか。		
出題形式	会話文完成		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (42) C (43) A (44) B (45) A (46) B (47) C (48) B (49) B (50) A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	平常授業の Reading パートおよび長文マラソン 特に OS 英語クラスの Reading 【1】 および夏期講習「早慶英語長文読解」		

●本大問の特徴・概要

慶應-法の名物問題である。一種の会話文問題だが、事故で大けがを負った後に新作を発表した詩人へのインタビューという設定で、インタビュアーのセリフだけがずらりと並び、バラバラに並べられた詩人の返答をうまく入れてゆくという一種の文整序問題になっている。返答の選択肢はひとつ 100 words にも及び、インタビュー形式ということで話の展開が予測しにくく、普通の論説文を使った東大の文整序より遥かに難しい年もある。

文整序問題の基本的な解法は、this や the などの指示語・旧情報に注意して、それが前の文の何を指しているのか、それを置いて文意が通じるのかを確定しながら解き進めるといものである。だが時にはそれにとどまらず、言葉の端々から話し手の意図を汲み取ったり、大きく話の展開を予測したりといったアクロバットを要求されるのが慶應の特徴である。こうしたことは論説文以外のマテリアル（小説や雑誌など）を扱った訓練をしている者に有利であろう。OS 英語クラスの平常授業で扱われる Reading 【1】は極めて有効である。

●注目すべき小問

合格者と不合格者で特に差がついた B レベルの問題は(46)であった。新作の中で多くの花々の名が挙がっていることについて「らしくない」と友人に批評されたという詩人の話を受けて、インタビュアーが「自分もまさにそう感じました」と述べる。これを受けて詩人が次のように答えるのが正答。

Did you? Well, all those poems were created during my rehabilitation, at which time...I smelt all those flowers and herbs by the roadside...

(そうかね。まあ、あの詩は全部リハビリ中に書いたものでね。リハビリの間に(中略)路肩の草花のおいを片っ端から嗅いだんだ(後略))

次が多かった誤答例である。

That's true. All those sensations just act as triggers. They lead me to my memories, my imaginings, my secret desires—all those versions of me which I keep stored deep within. In my poems I set them free from those deep wells.

(その通り。こうした感覚はちょうど引き金のようなものでね。やがて私は記憶・空想・隠れた欲望へとたどり着く—それはみな奥底にずっと蓄えられた別の私に他ならない。詩の中でそれを深い井戸から開放してやるんだね)

That's true. (それは正しい), those sensations (こうした感覚) という指示語の確定の段階ですでに失敗していることがわかるだろうか。合否をわけたのはいかにも慶應といったアクロバット的問題以前に、むしろこうした基本レベルの問題であったと言える。

【V】

予想配点	36/200 点	時間配分の目安	20/80 分
出題内容	長文問題 [Word 数] 685 words 『でか単』『完熟』レベル 『でか単』『完熟』ともに PART2 [長文テーマ] パトリック・オグラディの半生：あるアイルランド人の栄達と恋愛を綴った小説の要約		
出題形式	言い換え・内容一致・人名選択など		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (51) B (52) B (53) A (54) B (55) B (56) B (57) B (58) B (59) A (60) B (61) B (62) B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	平常授業の Reading パートおよび長文マラソン 特に OS 英語クラスの Reading 【1】 および夏期講習「早慶英語長文読解」		

●本大問の特徴・概要

700 ワード弱の長文問題だが、これは例年より少なめであった。また全体を通しておそらく昨年と今年で最も目立った変化だったが、内容が小説の要約文となった。

設問は段落ごとに作られているので、一段落読み進めるごとに一題ずつ解いていくことが出来る。後で拾い読みをしなくて済むので覚えておくのと有利だろう。量が多い割に単語レベルは平易で文も読みやすい。設問もあまり突っ込んだところまで訊いてはならず、ざっくりと出来事が追えていれば充分対応できる。合格者の正答率は総じて高く、100%に近い答案が少なくなった。一方不合格者はどの小問ということもなくどこかしらでちらほら誤答を出しており、大問全体として合格者と不合格者の差が最も顕著に現れた問でもあった。昨年同様この大問 V は文字通り満点狙いで取り組むべきだったと言える。

●注目すべき小問

合格者正答率が低く C にもっとも近かったのが (58) と (61) だが、問題を検討してみるといずれも「難問」というほどではない。おそらく最後の問題なので時間配分の関係でチェックが甘くなったという程度の理由だろう。(60) ~ (62) は小説の要約を読み、設問として与えられた台詞から、作中人物の誰の言いそうなことかを答えるというユニークなもの。奇しくも本年度の早稲田の法で似た出題があった。

(61) “But for you, another minute and all would have been over for me.”

(君がいなかったら、あとほんの一瞬で一卷の終わりだったよ)

and は、いわゆる「命令文+and」(～しなさい。そうすれば)でおなじみの用法。be over は(終わりだ)という意味で、いずれもセンター試験レベル。(F) 段落目に主人公の O'Grady が同僚の Campbell を強盗から救う場面が淡々と描かれている。台詞はこの Campbell のものと推測できるという問題だ。

逆に正答率が合格者・不合格者ともに非常に高かったのは (53) であった。慶應受験者のレベルあるいは特徴がわかるので、1・2年生の君も挑戦してみよう。設問は、なぜこの事態は”even more uncomfortable”と述べられているのか、というもの(実際はリード文も英文)。

At first heartbroken, O'Grady soon recovers and falls in love with a lovely heiress, Rose Edgcombe. This proves to be awkward, as both Lady Celia and Lord Wandsworth earnestly want her to marry Lord Wandsworth's son, the savage Lord Cotswold. In addition, Lady Celia encourages O'Grady to become acquainted with her brother. O'Grady and Cotswold become fast friends, which makes the situation even more uncomfortable.

(はじめのうち(Lord Wandsworth の娘 Lady Celia との恋に破れ)悲嘆にくれていたが、O'Grady はすぐに立ち直り、美しき資産家の跡取り娘 Rose Edgcombe と恋に落ちる。これが後に問題となる。Lady Celia も Lord Wandsworth も Rose には Lord Wandsworth の息子で粗野な Lord Costwold と結婚させたがっていたためだ。さらに Lady Celia は O'Grady を弟(Cotswold)と引き合わせる。O'Grady と Cotswold は固い友人となり、そのため事態はますます居心地の悪いものとなる)

正解は 1. Because O'Grady is now friends with a man who is his rival in love. (O'Grady が恋敵と仲良くなったから)

こういう小問は合格者も不合格者もほぼ満点を取っている、A レベルの問題である。合否を決するような細かい文法力や語彙力以前の話として、英文から情報を読み取る力があることはこの大学を受験する者として前提と言える。すでにそういう作業が得意な人は志望校として慶應を考慮に入れて良いのではないかな。

